

関西支部活動トピックス（4～6月：「関西支部定時総会」ほか）

平成 26 年度関西支部定時総会（6月4日（水）大阪新阪急ホテル）



最初に高橋興三支部長（シャープ（株）社長）より挨拶がありました。「当社が支部長を担当した2年前は、超円高、デフレ、電力不足等、厳しい環境でしたが、一昨年末の政権交代後は為替やデフレが好転し、今後は成長戦略の推進による一層の拡大も期待されます。この2年間に支部では多くの課題に取り組み、特に、①電子エネルギー情報産業における地域の競争力強化、②4K8Kの次世代放送の取組み、③自動車、医療・ヘルスケア等、新市場創出に向けた情報発信、④「JEITA 関西講座」や「ものづくり教室」等の人材育成、⑤紛争鉱物規制への対応、に注力しました。今後は新支部長の下で、新たな挑戦も進めていただければと思います。」

次に、JEITA の高田範雄理事より、業界の概況、JEITA の25年度事業報告ならびに26年度事業計画における主要事業の概要、さらに5月30日に開催した JEITA 定時社員総会につき報告がありました。

続いて、大塚昭徳支部事務局長より支部の25年度活動と26年度計画につき説明しました。25年度は「スピード & 連携」をテーマに、次の3点に重点的に取り組みました。①新たな市場・事業の創出：成長戦略に関する情報発信、成長分野における情報交流（部品運営委員会の韓国開催、機器・部品メーカー懇談会等）、②競争力強化：「技術セミナー」をはじめイノベーションに向けた情報発信、③基盤強化：人材育成プログラムの強化、「環境セミナー」等、各種規制に関する情報提供、紛争鉱物や製品安全をはじめ各種テーマに関する調査研究等。26年度は「スピード & 連携 & 多様性（事業・企業・ビジネス）」を

テーマに、自動車、エネルギー、医療等の成長分野と連携し、ビジネス・市場の創出拡大、内外ビジネス環境の整備、社会的諸課題解決に向けて取り組んでいきます。

次に、任期満了に伴う支部役員の改選を行いました。中山藤一運営部会長（シャープ（株）専務執行役員）を議長に、



支部運営部会委員会社30社を選出の後、平成26～27年度の支部長に長榮周作氏（パナソニック（株）会長）、副支部長に高橋興三氏（シャープ（株）社長）、運営部会長に宮部義幸氏（パナソニック（株）専務）を満場一致で選出しました。

続いて、長榮新支部長より就任の挨拶がありました。「先日、ブラジルに出張し、W杯の会場も訪問しました。反対デモにも遭遇しましたが、実際に開幕すれば大きく盛り上がるでしょう。その盛り上がりが16年のリオデジャネイロを経て、20年の東京五輪に繋がることを期待します。五輪は大きなビジネスチャンスで、4K8K やネットワーク TV は言うまでもなく、地球環境保護、安全、安心、快適をキーワードに、東京五輪ならではの新しい商品を提案し、企業の社会的責任を果たして行く必要があります。その中で、関西支部では、産学連携による人材育成、内外のシーズを情報家電企業に結び付ける仕組みづくり、アジア諸国との民間レベルにおける相互理解の取り組みを進めていきます。今後2年間、業界の発展、会員企業の繁栄、地域経済の振興に努めますので、皆様のご支援をお願い申し上げます。」

最後に、高嶋昌明近畿経済産業局部長、坂本忠宣 NHK 大阪放送局長より祝辞をいただきました。

第 84 回機器・部品メーカー懇談会（6月11日（水）ホテルグランヴィア大阪）

支部部品運営委員会の主催により開催しました。最初に伊藤好生委員長より挨拶がありました。「ここ数年で

機器の主役は大きく変わり、変化の激しさに驚くばかりです。この懇談会で注目商品の市場を学び、交流を深め



て、関西経済の活性化に繋がりたいと思います。」

続いて、機器側より報告を行いました。

【携帯電話市場の概観】京セラ（株）：世界の携帯電話市場は拡大を続け、'17年の出荷は20億台弱と見込まれます。今後はLTEの普及が進み、カテゴリーでは普及帯のスマートフォン、地域的にはアジア太平洋、中国、東欧・中東・アフリカが大きく成長します。米国では端末の価格競争、日本では料金と高品質サービスの両面で競争が激化しています。

【検査診断関連の動向と今後の展開】シスメックス（株）：検体検査装置はグローバルで3.6兆円の市場で、先進国、新興国ともに伸長しています。今後の開発トレンドでは、高機能化（遺伝子・タンパクの超高感度検出、検査の完全自動化）と、開業医や在宅医療に向けた小型化・マイクロ化が求められていきます。

【カーエレクトロニクスの動向と今後の展開】三菱電機（株）：自動車各社は、グローバル化によるスケールメリットと、環境、安全、快適等の高付加価値化を追求

しています。今後、HEV、PHEVは引き続き拡大しますが、EVの本格普及は'20年代の後半と見られます。安全・安心については、ドライバーセンシングや運転支援機能の充実がトレンドとなっています。スマートフォンへのユーザー情報集積が進む中、車載機器もスマホと連携し、画面タッチで簡単に操作できる「ディスプレイオーディオ」が伸びます。

【スマートエネルギー時代における“エネファーム”の普及拡大戦略】パナソニック（株）：オンサイト電源である家庭用燃料電池はエネルギー効率がが高く、CO₂排出量と光熱費を大きく削減できます。'13年度で約3.5万台と、国内市場は急速に立ち上がっていますが、政府の導入目標（累計で'20年に140万台）達成には年率140%の伸びが求められ、海外展開も含めた量産効果と、技術開発によるシステムの簡素化によりコストダウンを進めていきます。

最後に部品側の京セラ（株）から「電子部品業界の現状と京セラの取り組み」につき報告しました。主要な電子機器・部品の品目別需要動向と国内／海外メーカー生産比率、市場からの要求に対する同社の取り組みについて説明があり、MLCC、タンタル、コネクタについては今後の開発ロードマップが示されました。各発表後の質疑応答も活発で、機器と部品の相互理解が進められました。

神戸大学における「JEITA 関西講座」

関西IT・ものづくり技術委員会／産学連携分科会では、4月より神戸大学大学院工学研究科電気電子工学専攻（博士前期課程）にて、JEITA 関西講座「企業にお

ける研究・開発プロセスの実際」を実施しました。毎回約50名が受講し、いずれの講義もたいへん好評をいただきました。

月	日	テーマ	担当
4	16	ガイダンス	JEITA 関西支部
	23	古野電気製局地気象レーダーを例とした新製品開発プロジェクト	古野電気（株）
5	7	バイオセンサの開発と商品化	パナソニック（株）
	14	業務機器開発におけるユーザー中心設計	TOA（株）
	21	新規事業における技術開発の役割	ニチコン（株）
	28	CIGS イメージセンサ開発	ローム（株）
6	11	光ディスクの研究から事業化まで	シャープ（株）
	18	家庭用燃料電池の開発	パナソニック（株）
	25	電子デバイスの栄枯盛衰（ジャイロセンサーの開発・量産を通して体験したこと）	（株）村田製作所
7	2	光ディスク装置の光ピックアップ開発（機能の向上とコストダウンの両立）	三菱電機（株）
		以後、講師インタビュー	全社